

**2023年度**  
**バイオマス活用アドバイザー養成研修**  
**現地研修開催地**  
**（受入自治体）の募集**

日程・会場

座学研修：2023年9～10月頃予定（連続した3日間）

座学場所：馬事畜産会館（東京都中央区）

現地研修：2023年10～11月頃予定（連続した3日間）

# 2023年度バイオマス活用アドバイザー養成研修

## 現地研修自治体 募集要領

1. 名称	2023年度バイオマス活用アドバイザー養成研修
2. 趣旨	<p>世界的に脱炭素や生物多様性保全など、持続可能な循環型社会形成に向けた取組が進められる中、地域から供給されるバイオマス資源を地域内で循環させマテリアル利用やエネルギー利用をすることにより、地域産業への貢献、資源循環、地域経済効果等、バイオマスの活用は多岐にわたり貢献しています。</p> <p>わが国では2012年9月に決定されたバイオマス事業化戦略の一環として、地域のバイオマスの原料生産から収集・運搬、製造・利用までの経済性が確保された一貫生産を構築し、地域のバイオマスを活用した産業創出と地域循環型のエネルギーの強化により、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指す「バイオマス産業都市」の取組が推進されています。この制度によって2021年度までに97市町村のバイオマス産業都市が選定され、それぞれの地域に賦存するバイオマスを活用した事業が展開されています。また、2022年11月までに脱炭素先行地域が公表され、バイオマス産業都市からは8市町村が選定されました。</p> <p>このような状況下、(一社)日本有機資源協会(以下「JORA」)は、バイオマスの有効利用促進と持続可能な循環型社会及び脱炭素化社会の構築・推進を目的に様々な事業を展開しています。人材育成事業はその一つであり、各種研修を開催しています。「バイオマス活用アドバイザー養成研修」では、バイオマスの賦存量及び利用量の算定方法、バイオマス活用計画の策定方法を理解した上で、農林水産業をはじめとする地域の様々な産業との連携、関係者間の調整や事業化に向けた支援等により「現場を動かしていく」人材の養成を目指しています。</p> <p>本研修修了者には、バイオマス活用アドバイザーとして必要な知識と技術を習得したことを認定し、研修修了証を交付するとともに、全国の自治体におけるバイオマス活用計画の策定支援やバイオマス活用の具現化に向けた活躍を期待します。また、JORAとの連携等により、継続的にバイオマス活用の推進に努めていただくこととしています。</p> <p>本研修におきましては、現地研修を必須としており、全国の自治体に対しその場所提供を公募いたします。受入自治体につきましては、本研修を通じて研修生による地域のバイオマス賦存量や活用方針等を含む「バイオマス活用計画(案)」が作成されるとともに、研修終了後は、(一社)日本有機資源協会が第8項(p.2)に示す協議による範囲内にてバイオマス活用計画の策定等を支援いたします。</p>
3. 研修内容	<p>バイオマス活用アドバイザーとして必要とする知識及び技術の習得を目的とし、以下の講義、実習を行います。講義の内容詳細は[別表1]～[別表3]を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義：バイオマス活用に関する最新の政策、事業化事例、バイオマス活用計画の作成手法等             <ul style="list-style-type: none"> <li>※一部の講師はオンライン (Zoom) による講義となります。</li> <li>※資料は全て電子データでの配布となります。</li> </ul> </li> <li>2) 実習：個人及びグループによるバイオマス活用計画案の作成と発表</li> <li>3) 現地研修：ご協力頂く自治体内における現地調査等に基づく、バイオマス活用計画案の策定手法等の習得、計画案のプレゼンテーション、質疑応答、意見交換等</li> <li>4) 小論文：現地研修終了後に、別途設定するバイオマス活用に関するテーマに即した小論文を指定期日までに提出して頂きます。</li> </ol>

4. 研修日程 及び及び 実施場所	講義・実習：2023年9月～10月（連続した3日間） 馬事畜産会館（東京都中央区） 現地 研修：2023年10月～11月 （現地研修受入自治体が希望する連続した3日間）
5. 応募資格	下記①～④に掲げる資格を満たす自治体とします。 ①バイオマス活用計画の策定（バイオマスタウン構想の見直しを含む）やバイオマス活用の事業化等、バイオマス活用に積極的で、研修期間中に資料の提供、研修場所の提供、関係者への案内、宿泊場所の確保等に協力・紹介いただける担当者を配置できること。 ②講義・実習開始時期までに、バイオマス活用計画案を作成するために必要となる資料（要覧、諸施策・ビジョン、バイオマス賦存量算定に資する統計資料等）を提供できること。 ③現地研修に先立つ講義・実習（3日間／東京開催）に、受入自治体からの講義（1コマ）が可能なこと。 ④現地研修の際に、研修生及び事務局（10名程度）がデスクワーク可能な作業環境の場所を紹介でき、地域のバイオマス関係者（有識者、関連企業等）のご紹介をいただけること。
6. 募集自治体数	1自治体（研修者数10人以下程度とする） 応募多数の場合は、事務局により選考します。
7. 応募方法	「バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修自治体申込書」に必要事項を記入し、2023年2月28日（火）までに電子メールにて、事務局まで送付願います。申込書を確認後、必ず申込受領のメールを送付します。数日経っても事務局からメールがない場合は、お電話（03-3297-5618）にてご連絡ください。
8. 必要経費	本研修実施に際して受入自治体にご負担いただく費用は、東京で開催する座学研修会場までの自治体ご担当者の旅費（交通費、宿泊費等）となります。 研修終了後のバイオマス活用計画策定等について支援を希望される場合は、業務支援費等が必要となりますので、詳細及び金額につきましては別途協議の上決定・ご契約をさせていただきます。
9. その他	研修全体の概要については[別表1]～[別表3]をご参照ください。 なお、ご不明な点がありましたら下記の連絡先までお気軽にご連絡下さい。
10. 連絡先	一般社団法人日本有機資源協会 人材育成担当：十川・土肥・牛木 〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館 401号室 TEL：03-3297-5618 / FAX：03-3297-5619 E-mail： <a href="mailto:kensyu@jora.jp">kensyu@jora.jp</a>

[別表1] 2023年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 講義日程(予定)

開催日:2023年9月~10月(予定)

	日 時	講 習 内 容	講 師	
第 1 日 目	12:50~13:00	受付		
	13:00~13:20	オリエンテーション(開講にあたって)	一般社団法人日本有機資源協会 事務局	
	13:20~14:00	バイオマス活用をめぐる情勢	一般社団法人日本有機資源協会 事務局主幹 土肥 哲哉	
	小 休 憩			
	14:10~15:00	バイオマス活用事例- ① (廃棄物系バイオマス)		
	小 休 憩			
	15:10~16:00	バイオマス活用事例- ② (木質系バイオマス)		
	小 休 憩			
	16:10~17:40	バイオマス活用計画の策定の実務(その1)	一般社団法人日本有機資源協会 専務理事 柚山 義人	
	小 休 憩			
17:50~19:00	交流会(自由参加)			
第 2 日 目	8:50~9:00	受付		
	9:00~10:00	バイオマス活用の事業化		
	小 休 憩			
	10:10~11:40	バイオマス活用計画策定の実務(その2)	一般社団法人日本有機資源協会 専務理事 柚山 義人	
	昼 食 休 憩			
	13:00~15:30	バイオマス活用計画策定のための演習 (調査フロー及びバイオマス賦存量等の算定方法)	一般社団法人日本有機資源協会 事務局主幹 土肥 哲哉	
	小 休 憩			
15:40~16:40	実地研修自治体の概要と質疑	受入自治体		
16:40~18:00	バイオマス活用計画策定実習 (個人)	事務局		
第 3 日 目	8:50~9:00	受付		
	9:00~12:00	バイオマス活用計画策定実習 (個人)	事務局	
	昼 食 休 憩			
	13:00~15:30	バイオマス活用計画策定実習 (グループ)	事務局	
	小 休 憩			
	15:40~17:00	バイオマス活用計画案の発表と質疑	事務局	
17:00	閉講式			

[別表2] 2023年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 講義・実習概要(予定)

番号	講義名	概要
1	バイオマス活用をめぐる情勢	バイオマス・ニッポン総合戦略以来とられてきた国のバイオマス施策、バイオマス産業都市等の将来展望等を解説
2	バイオマス活用事例① (廃棄物系バイオマス)	廃棄物バイオマスの活用事例の紹介 廃棄物バイオマスの活用事例を解説するとともに、行政の構造や意思決定等の仕組み、行政側から見た計画策定までのプロセス(発端から公表まで)、行政側からアドバイザーに望むこと、等
3	バイオマス活用事例② (木質系バイオマス)	木質系バイオマスの活用事例の紹介 木質系バイオマスの活用事例を解説するとともに、行政の構造や意思決定等の仕組み、行政側から見た計画策定までのプロセス(発端から公表まで)、行政側からアドバイザーに望むこと、等
4	バイオマス活用の事業化	バイオマス活用事業へ向けた課題やキーファクター、事業収支試算における課題、事業実施自治体との協力等
5	バイオマス活用計画策定の実務	自治体のバイオマス活用計画策定のための意義と目的、役割分担、手順、調査・情報収集、協議会等の運営、心構え、留意点等の説明
6	バイオマス活用計画策定のための演習 (調査フロー及びバイオマス賦存量の算定方法)	対象地域の現状のバイオマス賦存量・用途別利用量及び2つの計画案に基づくバイオマス利用量について、実データを用いて算出する演習
7	バイオマス活用計画策定実習(個人)	(1)バイオマス活用計画案の作成 計画書全体デザイン、資料の分析(記述箇所の把握、不足情報の把握等)、バイオマス賦存量・活用量の算定、バイオマス活用計画案の作成
8	バイオマス活用計画策定実習 (グループ)	(2)現地研修計画書案の作成 現地研修内容(現地調査先、現地でのプレゼンテーション準備等)の検討、調査時間配分等の検討、現地研修計画書案の作成
9	バイオマス活用計画案の発表	プレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション等
10	現地研修	受入自治体の現地調査等に基づく、バイオマス活用計画案策定手法等の習得、計画案のプレゼンテーション、質疑応答、意見交換等

### 【別表3】 バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修 日程例

現地研修日：2023年10月～11月（予定）

研修場所：受入自治体

※現地研修の日程案を下記に示します。訪問する現地のバイオマス関連施設は、講義・実習時に研修生と（一社）日本有機資源協会事務局が調整します。

<日程例>

日目	時間	現地研修 概要
		研修生は受入自治体を対象としたバイオマス活用計画案策定に向けて自習を行います。事務局は研修生グループから提出された受入自治体への質問や、データ収集等の希望（以下、事前質問と記す）を取りまとめ、受入自治体へ提出します。また、研修生グループから提出された現地のバイオマス関連施設候補に事務局からアポを取り、ヒアリングの承諾を頂いた施設の訪問計画を作成し、研修生及び受入自治体へ共有します。
1	午前	受入自治体に集合
	午後	・現地研修オリエンテーション ・受入自治体への事前質問等に対する回答及び質疑応答 ・バイオマス関連施設の訪問と質疑応答（1）
	夕方	意見交換・交流会（研修生、事務局）
2	午前	・バイオマス関連施設の訪問と質疑応答（2）
	午後	・バイオマス関連施設の訪問と質疑応答（3） ・バイオマス活用計画案の作成
3	午前	・バイオマス活用計画案の作成
	午後	・バイオマス活用計画のプレゼンテーションの準備 ・受入自治体等へのバイオマス活用計画案のプレゼンテーション、質疑応答、意見交換

### 【別表4】 バイオマス活用アドバイザー養成研修 受講資格

※ 下記の項目すべてを満たすこと

番号	要件
1	本研修は、原則として本協会主催の「バイオマス活用総合講座」、「メタン発酵技術アドバイザー養成研修」、「コンポスト生産管理者養成研修」等、本協会主催のいずれかの研修修了者を対象とします。但し、上記講座・研修を受講されていない方については、バイオマス活用に関する知識を有し、バイオマス事業に関連した調査や事業の実績を3件程度有することを参考とし、事務局が判断致します。
2	業務等を通じてバイオマス活用を推進する強い意思と行動力があること
3	開催要領 第2項の「研修内容」に示す、全ての研修（講義、実習、現地研修）に参加可能なこと
4	現地研修を含む各研修会場までの旅費、宿泊費、食費等を自己負担可能なこと
5	パソコンを利用した表計算、文書作成、プレゼンテーション資料作成、電子メール送受信、インターネット検索等に習熟していること。また、講義、実習、現地研修にこれらのソフトウェアがインストールされているノートパソコンを持参可能なこと
6	研修修了後、一般社団法人日本有機資源協会と連携し、以下の役割に協力することが可能なこと（但し、自治体職員については、本項は該当しません） i) 自治体のバイオマス活用計画策定を支援 ii) 地域のバイオマス関連の事業化を支援 iii) 地域におけるバイオマス活用の普及を支援（講師、資料作成など）
7	次のすべての項に該当しないこと（欠格条項） 1) 成年被後見人又は被保佐人 2) 禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から起算して2年を経過しない者 3) 公務員で、懲戒免職の処分を受け、その処分をうけた日から起算して2年を経過しない者 4) 法律の規定により登録あるいは免許の取消し、業務の禁止など処分を受け、その処分をうけた日から起算して2年を経過しない者 5) 上記項目により登録の取消しを受け、その取消しの日から起算して2年を経過しない者

## 2023年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修自治体申込書

一般社団法人日本有機資源協会 会長 殿

2023年 月 日

申請者	フリガナ		フリガナ	
	自治体名		担当部署名	
	(所在地) 〒	都道府県	市区町村	
	TEL	— —	FAX	— —
ご担当者  ※住所等は上記所在地と異なる場合のみご記入下さい	フリガナ		フリガナ	
	お名前		役職名	
	(住所) 〒	都道府県	市区町村	
	TEL	— —	FAX	— —
応募理由				
バイオマス活用の現状及び今後の方針				

# 2023年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修自治体申込書（記入例）

一般社団法人日本有機資源協会 会長 殿

2023年 月 日

申請者	フリガナ		フリガナ	
	自治体名		担当部署名	
	(所在地) 〒 都道府県 市区町村			
	TEL	— —	FAX	— —
	E-mail			
ご担当者	フリガナ		フリガナ	
	お名前		役職名	
	※住所等は上記所在地と異なる場合のみご記入下さい (住所) 〒 都道府県 市区町村			
	TEL	— —	FAX	— —
	E-mail			
応募理由	<p style="color: red;">貴自治体の施策におけるバイオマス活用の位置づけ等、バイオマス活用にあたっての基本的なお考えを記述ください。</p> <p style="color: red;">記述例： 地域の農産物の付加価値化と農家の営農経費（肥料代）の低減をはかるため、家畜排せつ物と生ごみによる高品質コンポスト化施設の整備を検討しており、バイオマスタウン構想を見直してバイオマス活用計画を策定したい。</p>			
バイオマス活用の現状及び今後の方針	<p style="color: red;">可能な範囲で、貴自治体における</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="color: red;">・バイオマス資源の概要 (種類、量、活用量、課題となっているバイオマス、特徴的なバイオマス等)</li> <li style="color: red;">・バイオマス活用の現状、課題、方針、等の概要を記述ください。</li> </ul> <p style="color: red;">記述例：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) バイオマス資源 (例：〇〇地区の林地残材、△△食品会社の食品廃棄物等)</li> <li>(2) 課題 (例：耕畜連携の推進、ごみ処理費用の削減等)</li> <li>(3) 活用技術 (例：〇〇技術による□□製造、△△技術によるエネルギー利用等)</li> <li>(4) 製品等の供給先 (例：〇〇生産農家、△△企業のエネルギー利用等)</li> <li>(5) 活用方針 (例：バイオマス利用率100%を目指す、エネルギー自給率向上等)</li> </ol> <p style="color: red;">なお既存の資料を活用し、別添でご提出いただいても結構です。</p>			